

5 6 7 8 9 14  
 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 14

始



報々館書圖屋古居立市

日三廿月二十年二和昭

號八十四第

膨脹發展の一路に邁進しつつある名古屋市

- 名古屋市は、明治二十一年市制施行當時の市域に比して、今は市域が十倍以上に擴大し、人口は五倍に増加し、歳計は實に百六十倍に達した。ナント異数の發達を遂げつつあるのであらう。更に商工都市を市是として、これら設備の完成を期しつつ、目紛しい活動を爲しつつあるは、未だのもしい次第である。
- 昭和元年中の人口の増加数は實に五萬四千二百十二人で、その内出生死亡の差による自然増加は一萬一千六百八十八人で、その他は皆地方より名古屋市へ吸集された新移住者である。
- 廣袤及面積、東西三里二十六町、南北四里、面積九方里六〇四九九、周圍十四里十三丁。
- 戸口、戸數十九萬五千七百七十六、人口八十八萬四千五百九十四。(昭和二年十二月末現在)
- 歳入出豫算、歳入參千百參拾七萬九千七百七圓、歳出參千百參拾七萬九千七百七圓。(昭和二年度當切豫算)
- 市債、起債額五千九百九拾壹萬六千六百圓、内償還済額四百貳拾四萬參千五百貳拾參圓、未償還額四千七百六拾七萬參千七拾七圓。
- 諸工業、製造戸數一萬一千七百八十一、従業員八萬五千九百三十二人(男四萬四千三百二人、生産額參億參千參百拾壹萬六千貳百貳拾參圓。昭和元年年末)
- 諸會社、會社數千六百二十二、公稱資金四億八千六百七拾九萬五千貳百八拾九圓、拂込金貳億九千七百八拾五萬五百參拾七圓。(同上)
- 教育機關、小學校八十八、その教員數二千三人、児童數十萬七百六十五人、其の外各種學校官立三、縣立十三、市立三十三、私立八十、その教員數三千二百五拾參人、生徒數四萬千七百八十八人、而して學生及幾萬市民の自學自習所であり、修養所であり、調査研究所であり、又精神的慰安娛樂のオアシスである圖書館は、市立としては唯一の總圖書館に在るのみで、常に滿員に次々に滿員を以てし、収容力の不足なるに拘はらず、未だ樞要區域に分館の設けの無いのは甚だ遺憾である。私立としては、矢田氏の篤志になれる公衆圖書館、商工會議所の商工圖書館、その外小學校附屬としては、小學生を主としたものに八重、簡井の外尙十個所許ある。

内 容

- ▽十一月館内閱覽統計表
- ▽十一月館外閱覽統計表
- ▽十一月入館兒童學校別調
- ▽十一月入館兒童學年別調
- ▽十一月青年巡回文庫閱覽圖書種類別調
- ▽十一月青年巡回文庫回附
- ▽十一月現在藏書調
- ▽十一月最も新刊書
- ▽十一月中寄贈圖書
- ▽愛知縣圖書館協會第四回總會
- ▽三體遺品展覽會陳列品目錄
- ▽市立名古屋圖書館兒童大會
- ▽昭和年度經常部圖書館費歳出豫算



昭和二年十一月館内閱覽統計表

最高六日 日曜日 晴 八九七人  
最低十四日 月曜日 晴 三五〇人

職業別	男		女		計	一日平均
	男	女	男	女		
學生	七四〇	六二二	八三三	七〇七	一五三六	一〇〇.〇
商工業者	二五二	二二二	二二二	二二二	九二〇	六〇.〇
官吏軍人	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
宗教家教育家	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
記者著述者	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
無職業者	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
外國人	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
計	一一一〇	九二〇	一三二〇	一〇〇〇	三三三〇	二二〇.〇

昭和二年十一月館外閱覽統計表

最高六日 日曜日 晴 八九七人  
最低十四日 月曜日 晴 三五〇人

職業別	男		女		計	一日平均
	男	女	男	女		
學生	七四〇	六二二	八三三	七〇七	一五三六	一〇〇.〇
商工業者	二五二	二二二	二二二	二二二	九二〇	六〇.〇
官吏軍人	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
宗教家教育家	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
記者著述者	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
無職業者	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
外國人	三三	三三	三三	三三	一三二	八.七
計	一一一〇	九二〇	一三二〇	一〇〇〇	三三三〇	二二〇.〇

昭和二年十一月入館兒童學年別調



學年	男	女
入館兒童數	九一三	四六五
尋常科六學年	九一〇	三九七
尋常科五學年	八一〇	三〇四
尋常科四學年	五八九	二七五
尋常科三學年	五八八	二二九
尋常科二學年	二六四	一三四
尋常科一學年	一四三	八五
高等科一學年	五	三三
未就學ノ者	四六	二八
中學校一學年	二	八
中學校二學年	五	六
中學校外ノ者	二	六
計	四五七二名	一九六四名

閱覽兒童男女總合計 六五三六名  
一日平均 二四二名強  
閱覽日數(平日) 四十三日(二十七日) 四日(二十七日)

昭和二年十一月青年巡回文庫閱覽圖書類別調

分類別	冊數	閱覽冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數
〇總計	一四一	一四一	一四一	一四一	一四一	一四一	一四一	一四一	一四一
一哲學、宗教	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
二文學、語學	七	七	七	七	七	七	七	七	七
三文學、語學	七	七	七	七	七	七	七	七	七
四歷史、地理	六	六	六	六	六	六	六	六	六
五法則、經濟、統計	一	一	一	一	一	一	一	一	一
六理學、醫學	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七工學、軍事	一	一	一	一	一	一	一	一	一
八美術、工藝	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九產業、交通	一	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

昭和二年十一月青年巡回文庫團體別調

團體名	冊數	閱覽冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數	回附冊數
回附團體	一	一	一	一	一	一	一	一	一
松元聯區青年團	一	一	一	一	一	一	一	一	一
千種機器青年團	一	一	一	一	一	一	一	一	一
延子町青年會	一	一	一	一	一	一	一	一	一
廣井青年團	一	一	一	一	一	一	一	一	一
瑞穂青年團	一	一	一	一	一	一	一	一	一
古新青年團	一	一	一	一	一	一	一	一	一
荒子青年團	一	一	一	一	一	一	一	一	一
南押切青年團	一	一	一	一	一	一	一	一	一
波寄聯區青年團	一	一	一	一	一	一	一	一	一
日置青年團	一	一	一	一	一	一	一	一	一

昭和二年十一月入館兒童學校別調

小學校名	入館兒童數
小松	二〇五
小針	一〇七
高針	七四三
高松	四六四
高松	四三三
高松	四一三
高松	四〇三
高松	三九三
高松	三八三
高松	三七三
高松	三六三
高松	三五三
高松	三四三
高松	三三三
高松	三二三
高松	三一三
高松	三〇三
高松	二九三
高松	二八三
高松	二七三
高松	二六三
高松	二五三
高松	二四三
高松	二三三
高松	二二三
高松	二一三
高松	二〇三
高松	一九三
高松	一八三
高松	一七三
高松	一六三
高松	一五三
高松	一四三
高松	一三三
高松	一二三
高松	一一三
高松	一〇三
高松	九三
高松	八三
高松	七三
高松	六三
高松	五三
高松	四三
高松	三三
高松	二三
高松	一三

以上市内小學校が六十八校で、其入館兒童數が六千三百七十八名、其他尋常科卒業、中學一、二年、未就學の者、市外兒童等合せて百五十三名である。







牛田圖書館長 江坂春吉  
武豊圖書館員 淺野權太郎  
市立名古屋圖書館長 阪谷俊作  
總務司書 樋口千代松  
書記 森川笠二  
司書 箕形殿太郎  
書記 龜井市治  
書記 岡田新之丞  
書記 塚本勝雄  
書記 竹尾謙三郎  
書記 松永久矣  
書記 小野賢吉  
書記 戸崎彰  
書記 中島清一

幹事 後藤政次郎  
倉岡勝彦  
上田清  
樋口千代松  
箕形殿太郎

三傑遺品陳列品目録

昭和二年十一月十九日(十一月三日開)

一、總田信長書狀 關戸守彦氏藏  
信長ヨリ瀧川一益ニ宛タル書狀ナリ  
就今度客人種々馳走之段別而祝候其則則從安土  
申越候御事之儀もへたてなくも入簡候也  
三月二十八日 謹言

一、同 書狀 同 信  
信長ヨリ秋田城介信忠ニ宛タル書狀ナリ  
二十九日注進今日令到來披見候仍於駿州穴山依謀  
反四郎甲州へ北退候間召仕候誠澤走入申候由候穴  
山此方へ内々申子細候定可爲實儀候猶々隨聞届追  
々注進待入候次從大鳴至飯鳴陣替之儀無是非候然  
上其ヨリさきへは一切無用我々事近々出馬候付示  
合手間不入可打果候先河尻與兵衛たへも此旨  
具申候可成候也 謹言  
三月三日 城介殿

一、總田信長制札 加藤秀一氏藏  
天文十八年十一月信長ノ熱田神宮造營ノ制札ナリ  
(名古屋市史政治編所載)  
藤原氏ノ姓ヲ稱スルハ織田氏ノ本姓平氏ニ出ブル  
ニアラズシテ藤原氏ニアルヲ疑ハシムル一體トス  
ルニ足ルモノナリ  
(名古屋市史政治編抄録)

一、當社爲御造營宮中可被入別然上者國次種別他所  
他國之諸勳進令停止事  
一、黨黨於現形者不及屬可成敗事  
一、宮中依先例他國當國敵味方并奉公人足願預預り物

一、同 書狀 同 信

一、同 書狀 同 信

一、同 書狀 同 信

一、同 書狀 同 信

附記

第三回總會に於て役員の任期二ヶ年と修正せらるる  
十四年收支決算表(第三回總會に報)

一、金貳拾貳圓也 收 入  
内 淨 金七圓也 十三年分繰越  
金拾四圓也 十四年分會費貳拾八名分  
金壹圓也 十三年未納者貳名分納入  
一、金貳圓六拾錢也 支 出  
内 淨 金六拾錢也 牛紙購入代  
金貳圓也 事務取扱者へ謝禮

一、金貳拾貳圓九拾錢也 收 入  
内 淨 金拾九圓四拾錢也 十四年度分繰越  
金貳拾圓 十五年分會費四十名分  
金參圓五拾錢 十四年未納者七名分納入  
一、金參圓參拾貳錢也 支 出  
内 淨 金壹圓拾四錢也 切手ばかりき代  
金七拾八錢 牛紙封筒代  
金四拾錢 米客茶菓料  
金壹圓 幹事會茶菓料

一、金拾貳圓九拾錢也 收 入  
内 淨 金拾九圓四拾錢也 十四年度分繰越  
金貳拾圓 十五年分會費四十名分  
金參圓五拾錢 十四年未納者七名分納入  
一、金參圓參拾貳錢也 支 出  
内 淨 金壹圓拾四錢也 切手ばかりき代  
金七拾八錢 牛紙封筒代  
金四拾錢 米客茶菓料  
金壹圓 幹事會茶菓料

一、金拾貳圓九拾錢也 收 入  
内 淨 金拾九圓四拾錢也 十四年度分繰越  
金貳拾圓 十五年分會費四十名分  
金參圓五拾錢 十四年未納者七名分納入  
一、金參圓參拾貳錢也 支 出  
内 淨 金壹圓拾四錢也 切手ばかりき代  
金七拾八錢 牛紙封筒代  
金四拾錢 米客茶菓料  
金壹圓 幹事會茶菓料

一、金拾貳圓九拾錢也 收 入  
内 淨 金拾九圓四拾錢也 十四年度分繰越  
金貳拾圓 十五年分會費四十名分  
金參圓五拾錢 十四年未納者七名分納入  
一、金參圓參拾貳錢也 支 出  
内 淨 金壹圓拾四錢也 切手ばかりき代  
金七拾八錢 牛紙封筒代  
金四拾錢 米客茶菓料  
金壹圓 幹事會茶菓料

一、金拾貳圓九拾錢也 收 入  
内 淨 金拾九圓四拾錢也 十四年度分繰越  
金貳拾圓 十五年分會費四十名分  
金參圓五拾錢 十四年未納者七名分納入  
一、金參圓參拾貳錢也 支 出  
内 淨 金壹圓拾四錢也 切手ばかりき代  
金七拾八錢 牛紙封筒代  
金四拾錢 米客茶菓料  
金壹圓 幹事會茶菓料

一、金拾貳圓九拾錢也 收 入  
内 淨 金拾九圓四拾錢也 十四年度分繰越  
金貳拾圓 十五年分會費四十名分  
金參圓五拾錢 十四年未納者七名分納入  
一、金參圓參拾貳錢也 支 出  
内 淨 金壹圓拾四錢也 切手ばかりき代  
金七拾八錢 牛紙封筒代  
金四拾錢 米客茶菓料  
金壹圓 幹事會茶菓料

町村圖書館ノ施設經營上最モ考慮スヘキ點如何

右付議の末委員附託となり幹部と協定し答申するこ  
に決す。

現在役員

評議員 阪谷俊作  
長 矢田 績  
岡崎 柴田 正  
豊橋 内山 新  
一宮 佐藤 速男  
岩瀬 堀 助  
櫻 尾 謙

等不可致之事 付宮中へ出入之者於路次口儀申懸  
事 一宮中使事三日以前 井其村へ相届之迷亂明  
其上就難進者可入 費使事  
一依物 事住所之判形之旨宮中へ無相違可往返  
事 右條々於違犯之輩者速可處罰科者也仍  
執達如件

天文十八年十一月 日 藤原信長花押  
一、同 所持紙入 水野太郎左衛門氏藏  
信長清洲ニ在リシ時水野太郎左衛門宗梅仕ヘテ賜ハ  
リシモノナリ (名古屋市史政治編ニ寫眞ナ載ス)

一、同 所用裝束製 同  
信長清洲ニ在リシ時水野氏ノ祖水野太郎左衛門宗梅  
仕ヘテ賜ハリシモノナリ (名古屋市史政治編ニ寫眞  
ナ載ス)

一、同 着附陣羽織 加藤秀一氏藏  
信長著用ノモノニシテ熱田加藤氏祖加藤隼人佐實景  
ニ拜領シタルモノナリ  
着丈 三尺四寸  
袴 二尺  
袴巾 四寸二分  
ニシテ信長體格ノ偉大ナリシ一證トス可キモノナリ  
一、同 同扇履 山崎 文 次氏藏  
山崎氏祖又二郎重友永祿三年桶狭間ニ於テ戦功アリ  
信長ヨリ宅地、旗章其他ト共ニ賜ハリシモノ  
明治二十三年四月大演習ノ時愛知縣會議事堂ニ明治  
天皇臨幸アリ便殿ニ陳列天覽ニ供セシモノ  
(愛知縣聖蹟誌所載)

一、同 所持足半 同 兼松 正 勝 氏藏  
兼松氏祖又四郎正吉天文十一年信長ニ仕ヘテ三百貫  
文ノ地ヲ領ス天文元年八月十四日信長ノ根山ノ役ニ

於テ又四郎進メテ先登シ敵將申村彦右衛門ヲ討チ首  
級ヲ信長ニ獻ズ信長大ニ感賞シテ曰ク「無類ノ高名  
神妙ナリ然レドモ汝若武者ナレバ心掛薄ク跳足ニテ  
出テテト見ユキ若年ヨリ出陣毎ニ必ズ足牛一足  
ゾツナ刀精ニ懸ケテ用意シ早業ニハ之ヲ用ヒタリ今  
ハ汝ニ取ラスルナリ、之ヲ穿チテ儲ケ可シ」トテ精  
ヨリ外シテ之ヲ賜ヘリ云々  
(名古屋市史政治編所載)

一、豊臣秀吉書狀 侯爵 徳川 義 親氏藏  
秀吉ハ朝鮮征伐ニ當リ文祿元年三月二十六日京都ヲ  
發シ四月二十五日肥前名護屋ノ行營ニ着ス當時我が  
征韓軍ノ先鋒小西行長ハ五月二日加藤清正ハ翌三日  
京城ニ入りシガ其注進未ダ名護屋ニ達セザル以前五  
月六日北政所ニ宛テシ書狀ニシテ北政所ヨリ秀吉  
ニ端午ノ節句ノ贈リシモノヨリ秀吉ハ之ニ對シ  
テ懇ニ禮ヲ言ヒ九月ノ節句ノ贈物ハ明ニテ受取ルベ  
シトノ推賞ヲ述ベ朝鮮ノ諸城ハ我軍ノ爲ニ多ク陥レ  
ラレ其都ハ我軍ノ占ハセル藩ヨリ二十里ナルモ早ヤ  
近ケルニヨリ總テ都ヲ陥ルルコトナルベク此點  
ハ安心アリタシ既ニ軍船ヲ揃ヘテ援軍ヲ遣セシ  
カバ問モナク明チモ取リテ御身ヲ迎フベキ旨ヲ説キ  
其返シ書ニハ北政所ノ贈レル袖無、道服ハ其必要ナ  
ク袖無ハ甲冑ヲ着スル時ニハ好ケレドモ今ハ不用ナ  
ク尙大阪城ノ火ノ用心ヲ嚴重ニ申付クルコトヲ命ジ  
必ズ朝鮮ノ都ヲ陥ルレバ自分ノ元氣ガ倍旺盛ナルコ  
トヲ思ハル、機申道セルモノナリ  
(豊太閣ニ其家族、抄録)

かへす／＼いろ／＼そへ給候おうれしく候又そて  
なしとさふくむやうにて候、そてなしはくそくのこ  
きはかりよく候いり不申候大きなのひのようしん申  
つけ候ならん／＼こゝろ真いのみやこゝろ候てや  
てやめて大かうさまも御さかんをほしめし候

せつこのかたはいろ／＼とさりそへ給候、めてた  
くゆく久しくとゆわい候てめし候まじ、御心やすく  
候へ候、九月のせつはからにてうけとり可申上  
さ存候、ばや／＼こゝろ真いしろ／＼おとり申あいた、  
こゝろ真いのみやこゝろ、この方よりとり候、舟つき  
よりは廿里御座候よし申候、はやくこゝろ真いのみや  
こゝろ、おさいて人数つかわけ候間、やめて、みやこお  
もとり可申、御心やすく候へ候、ふれおそろへ申  
て、やめてあさの人數おもこさせ可申、からおもこ  
り可申間、そもじのむいおめてたく可通之候、か  
し、  
五月六日 一 なこや  
お 編 返 事 大 か う

一、同 書狀 同 信  
秀吉ヨリ遠君ニ宛タルモノニシテ返シ書文中おひろ  
いさまトアルハ秀頼ノ事ナリ  
かへす／＼やいとたれなりとめされ候へ候お  
ひろいさまへ御やいと御むやうにて候か／＼さまめ  
され候てくせ事にて候以上  
三事の御いんしんおくり給候一しほ／＼なかめい  
り候へ候こゝろそのふりん申つけ候て五三日中  
に參つる御物かたり可申又このはなれ一しゆ  
進上候やめて／＼參候はんおひろい／＼のみ  
やけ進し可申候 かし、  
おひろいさまへ

一、徳川家康書状 侯爵 徳川 義 親氏藏  
長篠役ノ時ノ宵保ト稱ス  
一、同 書狀 同 信  
天正十二年四月ノ小牧山對陣ニ於テ家康信雄ヲ援ケ  
同九日兵ヲ引テ岩崎ニ到ル秀吉ノ將池田信輝長可  
ノ軍ト長久手ニ戰ヒテ之ヲ破リ信輝長可ヲ斃シ敵首

一、同 書狀 同 信  
秀吉ヨリ遠君ニ宛タルモノニシテ返シ書文中おひろ  
いさまトアルハ秀頼ノ事ナリ  
かへす／＼やいとたれなりとめされ候へ候お  
ひろいさまへ御やいと御むやうにて候か／＼さまめ  
され候てくせ事にて候以上  
三事の御いんしんおくり給候一しほ／＼なかめい  
り候へ候こゝろそのふりん申つけ候て五三日中  
に參つる御物かたり可申又このはなれ一しゆ  
進上候やめて／＼參候はんおひろい／＼のみ  
やけ進し可申候 かし、  
おひろいさまへ

一、同 書狀 同 信  
秀吉ヨリ遠君ニ宛タルモノニシテ返シ書文中おひろ  
いさまトアルハ秀頼ノ事ナリ  
かへす／＼やいとたれなりとめされ候へ候お  
ひろいさまへ御やいと御むやうにて候か／＼さまめ  
され候てくせ事にて候以上  
三事の御いんしんおくり給候一しほ／＼なかめい  
り候へ候こゝろそのふりん申つけ候て五三日中  
に參つる御物かたり可申又このはなれ一しゆ  
進上候やめて／＼參候はんおひろい／＼のみ  
やけ進し可申候 かし、  
おひろいさまへ

一、同 書狀 同 信  
秀吉ヨリ遠君ニ宛タルモノニシテ返シ書文中おひろ  
いさまトアルハ秀頼ノ事ナリ  
かへす／＼やいとたれなりとめされ候へ候お  
ひろいさまへ御やいと御むやうにて候か／＼さまめ  
され候てくせ事にて候以上  
三事の御いんしんおくり給候一しほ／＼なかめい  
り候へ候こゝろそのふりん申つけ候て五三日中  
に參つる御物かたり可申又このはなれ一しゆ  
進上候やめて／＼參候はんおひろい／＼のみ  
やけ進し可申候 かし、  
おひろいさまへ

一、同 書狀 同 信  
秀吉ヨリ遠君ニ宛タルモノニシテ返シ書文中おひろ  
いさまトアルハ秀頼ノ事ナリ  
かへす／＼やいとたれなりとめされ候へ候お  
ひろいさまへ御やいと御むやうにて候か／＼さまめ  
され候てくせ事にて候以上  
三事の御いんしんおくり給候一しほ／＼なかめい  
り候へ候こゝろそのふりん申つけ候て五三日中  
に參つる御物かたり可申又このはなれ一しゆ  
進上候やめて／＼參候はんおひろい／＼のみ  
やけ進し可申候 かし、  
おひろいさまへ



